

息苦しい(呼吸困難)を どう診るか



鋪野紀好 (千葉大学大学院医学研究院地域医療教育学特任准教授／千葉大学医学部附属病院総合診療科)

本コンテンツはハイブリッド版です。PDFだけでなくスマホ等でも読みやすいHTML版も併せてご利用いただけます。

▶ HTML版のご利用に当たっては、PDFデータダウンロード後に弊社よりメールにてお知らせするシリアルナンバーが必要です。

▶ シリアルナンバー付きのメールはご購入から3営業日以内にお送り致します。

▶ 弊社サイトでの無料会員登録後、シリアルナンバーを入力することでHTML版をご利用いただけます。登録手続きの詳細は <https://www.jmedj.co.jp/page/resistration01/> をご参照ください。

▶ 登録手続

Introduction	p2
1 呼吸困難とは？	p4
2 呼吸困難は主観的？	p4
3 呼吸困難の有病率は？	p5
4 呼吸困難でプライマリ・ケアを受診する際の原因疾患は？	p6
5 急性呼吸困難の原因疾患は？	p7
6 急性呼吸困難から心不全を診断するためには？	p8
7 急性呼吸困難から肺血栓塞栓症を診断するためには？	p10
8 慢性呼吸困難の原因疾患は？	p11
9 身体診察を適切に実施するためには？	p11
10 POCUSの有用性	p15
11 Long-COVIDによる呼吸困難	p16

▶ 販売サイトはこちら

日本医事新報社では、Webオリジナルコンテンツを制作・販売しています。

▶ Webコンテンツ一覧

Introduction

1 プライマリ・ケアにおける呼吸困難とは？

- ・呼吸困難とは，“呼吸が不快である”，“息がしづらい”，といった自覚症状であり，プライマリ・ケア外来においてしばしば遭遇する主訴である。
- ・高齢者では，呼吸困難の割合が増える。
- ・呼吸困難には，低酸素血症により呼吸不全を呈する客観的なものもあれば，低酸素血症を伴わない主観的なものもある。呼吸困難の診療では，これらを明確に切りわけてアプローチをすることが重要である。
- ・呼吸困難でプライマリ・ケアを受診する患者の原因疾患としては，呼吸器疾患と循環器疾患で約85%を占める。その中でも急性上気道炎が最も多い。

2 呼吸困難の診断

(1) 急性呼吸困難の原因疾患

- ・心不全が最多であり，慢性閉塞性肺疾患 (COPD) の急性増悪/気管支喘息発作，呼吸器感染症，肺血栓塞栓症，急性冠症候群と続く。

(2) 急性呼吸困難から心不全を診断するために

- ・病歴と身体所見に精通する必要がある。急性呼吸困難の中から単独で心不全を抽出できる病歴や身体所見はないが，いくつかを組み合わせることで診断精度の向上が見込める。

(3) 急性呼吸困難から肺血栓塞栓症を診断するために

- ・特異度が比較的高い，心雑音，頸静脈圧上昇，喘鳴，下腿浮腫等の所見に注目する。

(4) 慢性呼吸困難の原因疾患

- ・鑑別疾患は，呼吸器系，循環器系，筋骨格系 (呼吸筋を含む)，血液系 (貧血等)，心因性疾患，ディコンディショニングなどに分類される。

3 身体診察を適切に実施するために

(1) 診断に役立つ病歴

- ・症状の時間経過（タイムフレーム）に着目する。また、症状に応じて注目すべきポイントを押さえる。

(2) 診断に役立つ身体診察

- ・「バイタルサイン」「head to toeでの身体診察」などにおいて、注目すべきポイントを押さえる。

4 POCUSの有用性

- ・POCUS (point-of-care ultrasound) はそれなりに高い検者間一致率をもって実施できる検査手技であり、プライマリ・ケアの現場でも積極的に活用すべきである。
- ・心不全、肺炎、肺血栓塞栓症、胸水貯留、気胸などでよく用いられる。

5 Long-COVIDによる呼吸困難

- ・新型コロナウイルス感染症診断後、28日以上症状が持続している事例を“Long-COVID”と呼ぶ。
- ・症状は、多種多様である。肺の器質的変化がないにもかかわらず自覚症状が残存している事例に対し、確立された治療法はまだない。

伝えたいこと…

本稿を通して、呼吸困難に対する全般的な診断のためのアプローチを示した。それぞれの有病率を理解し、特徴的な症状を確認することが診断への近道である。近年注目されているPOCUSも簡易的で非侵襲的な検査であるため、プライマリ・ケアでは修得したいものである。これらをうまく組み合わせることで、プライマリ・ケアでも適切な診断に至ることができるだろう。

1 呼吸困難とは？

「息苦しい」という患者の言葉は、一般的には「呼吸困難 (dyspnea)」という医学用語に置き換えられる。呼吸困難とは、“呼吸が不快”や“息がしづらい”といった自覚症状である。患者の感じ方や表現の仕方は、「息苦しい」を含め様々である(表1)。これらを包括した呼吸困難という訴えには、プライマリ・ケアでもよく遭遇する。

表1 呼吸困難を患者はどう表現するか(患者の言葉)

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| • 息苦しい | • 息ができない | • 息が吸いにくい |
| • 息が吐きにくい | • 胸が苦しい | • 息切れがする |
| • 息がつまる | • 動くと苦しい | • 空気が足りない |
| • 喉がつまる感じ | | |

2 呼吸困難は主観的？

呼吸困難はあくまで自覚症状ではあるが、身体的要因によって出現することもある。精神的あるいは社会的要因によって出現することもある。また、身体的・精神的・社会的要因が相互に作用し、その結果、呼吸困難を呈している場合もある(図1)。